生活科部会

| |
|---|
| 県研究主題<br>具体的な活動や体験を通して気付きの質を高める学習活動を充実し、生活科学習の特質を生かした学習指導と評価の工夫・改善 |

提案１　　提案者　宮原　千恵子（川崎地区）

| |
|---|
| ＜研究主題＞<br>豊かに学ぶ子をめざして<br>―　子ども一人一人の思いや願いを大切にした学習活動の創造　― |

１　提案内容

「豊かに学ぶ」とは、主体的に学習に取り組み、人やものとのかかわりを充実させ、生きる力を育んでいけるような学びのことと捉えている。また、指導にあたっては、育てたい力を明確にした単元構成も大切にしていきたいと考えている。そこで、「子ども一人一人の思いや願いを大切にした学習活動の創造」というテーマを設定した。さらに、テーマにせまるために「(１)子どもの思いや願いを生かした単元構成とは」「(２)気付きの質を高められるような教師のかかわり方とは」の２点を視点として取り上げ研究を進めていく。

家庭は、児童にとって自分を支えてくれている場、成長や自立を支えてくれる家族がいる大切な場である。しかし、児童にとってあまりにも身近であるため、その大切さに思い至らず、また、自分にもできることがあることに気付かずに生活していることが多い。そこで、家族との生活を振り返ることから学習をはじめていく。そして、この学習を通して、家族の思いや願いに触れることにより、自分自身を振り返り、今後の生活をよりよくしていこうとする意欲を高めていくことも期待したい。

「かぞく、大すき」

（１）　子どもの思いや願いを生かした単元構成

①　家族に認められた喜び･･･きっかけづくり

②　思いを広げて･･･日常生活の中での家族とのかかわりを思い出して

③　見方を変えてみよう･･･家族を喜ばせよう

④　意欲の継続･･･もっとやってみたい・もっとできるよ

⑤　認めてもらった喜び・自信や達成感から新たな思いへ･･･家族が本当に喜んでくれること

（２）　気付きの質を高められるような教師のかかわり方

①　無自覚なものから自覚された気付きへ

②　一つ一つの気付きから関連付けられた気付きへ

③　働きかける対象から自分自身への気付きへ

２　協議内容

（１）　子どもたちのつぶやきについて

・Ｔ．Ｔと連携して、活動の中で子どもたちのつぶやきを聞き取ったり、子どもたちのワークシートから見取ったりした。

（２）　「生活の自立」としての取り組みについて

・指導計画を２本立案していたが、子どもの意欲をかきたてることができると思われる方に取り組むことに決めた。「生活の自立」は２年間での目標であるため、「自分のことは自分でやる」という１年生なりの自立を考えた。

（３）　生活科の授業を受けたことのない保護者の協力を得るための方法について

・全体には懇談会で話題にしたり、文書を配付したりし、個別には学校に保護者が来たときに話をして協力を得た。

（４）　教材について

・「かぞく、大すき」では、画用紙にミシンで切れ目を入れて、お手伝い券を作った。下半分に家族からのコメントを書いてきてもらい、子どもたちにその半券を持ってこさせるという実践を行った。

（５）　「～してもらっている」から「家族のためにしてあげる」へと変わった様子について

・子どもたちからは最初「～してもらった」がほとんどだった。家族に「ご飯を作ってもらっている」ことには気付くことができた。お父さんが家族を支えていると気付き、お母さんからお父さんへ視点が変わった子もいた。子どもたちが自分は何をすればよいのかと考えるとき、家族の様子じっくりと見ることができる。

（６）　単元の中で、子どもの思いや願いを一番大事にしたところについて

・家族からの手紙が子どもたちにとても影響があった。感動している子も多くいた。最後の手紙では、子どもたちの今までのことやこれから先のことも書いてもらい、泣いている子もいた。子どもたちは新たな思いをもつことができたと感じている。

３　まとめ

・子どもたちには、好奇心・自立的欲求・向社会的要求をもたせて学習活動させると、楽しい・面白い・充実感・満足感・自己有能感を味わうことができる。意図的にそのような単元構成を考えなくてはならない。子どもを本気にさせるような単元構成、子どもたちの自信へとつなげられるような単元構成が大切である。友達や家族からのメッセージをもらうと、子どもたちはとても嬉しく感じる。今回の実践はその点をうまく利用していた。

・気付きの質を高めるための手立てとして、「無自覚なものから自覚された気付きへ」「一つ一つの気付きから関連付けられた気付きへ」「働きかける対象から自分自身への気付きへ」と質的に高まっていくことが大切であり、そのためにも教師の単元構成の工夫が必要である。この実践で改めて単元構成の大切さがわかった。

４　助言

・各学校においては、教育課程の編成や単元計画の作成、授業づくりに際して、次の点に留意する。

○気付きの質を高める学習活動の充実

○伝え合い交流する活動の充実

○自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実

○安全教育や生命に関する教育の充実

○幼児教育及び他教科との接続

提案２　　提案者　風間　由香利（県央地区）

＜研究主題＞
生き生きと取り組む生活科
－気付きの質を高める授業展開の工夫・改善―

１　提案内容

生活科において、気付きの質を高めるためにはどのような指導をしたらよいのかを考えて指導の充実を図ることが必要である。そこで、気付きの質を高める授業改善を図るための手だてとして、次の７点が挙げられる。

・無自覚から自覚へ　・個別から関連へ　・対象から自分自身へ
・振り返り表現する機会を設ける　・伝え合い交流する場を工夫する
・試行錯誤や繰り返す活動を設定する　・児童の多様性を生かす

この７つの事項に留意して指導計画を立案して授業を実践し、授業記録を振り返って考察したことに基づいて授業改善を試みることにより、気付きの質を高める指導の充実を図る手がかりを明らかにしたいと考え、研究に取り組むこととした。

（１）　年間指導計画の作成

２年間を見通した年間指導計画の作成に配慮することが､今回の改訂で新たに示された。また、本研究で取り組んでいる単元は、内容（９）を主な指導内容としている。自分の成長に関する気付きは、生活科の全内容の中で捉えることができるものであり、このことからも、２年間を見通して年間指導計画の立案を行った。

（２）　授業実践「みんな大きくなったよね」から

①　振り返り表現する機会の設定

大きさを実感して単元の学習への意欲を高めることをねらいとして、クラスの男児の現在の身長の実物大の絵を提示して導入を行った。身長の伸びをテープにとって見せることで、子どもたちの興味・関心が高まった。そこで、さらに、自分のできるようになったことなど内面的な成長に目を向けさせたいと思った。そのために、妊娠中の教諭にゲストティーチャーを依頼し、誕生を待ち望む家族の気持ちや名前の由来、誕生後の期待などについて話を聞くことで､自分の家族にも話を聞くきっかけづくりを行った｡そして､授業後、冬休みに自分の家族にインタビューをすることを提案した。

②　座席表指導案と板書の工夫

子どもたちの「じぶんたんけんインタビュー」をもとに、本時の座席表指導案を作成した。授業の流れ・支援と児童一人ひとりの思いを１ページにまとめたことで、どの時点でどの子を生かすかを把握でき、授業の流れをイメージすることができた。また、子どもたちが自分たちの成長がよくわかるような板書を工夫した。

③　ワークシートの活用

学年で使用した「できるようになったよ」のワークシートでは、「自分のよいところ」や「友だちから」というように項目を分けて記述する形式を取り入れた。そのことにより、児童にとって何を書けばよいのかが明確であり、書きやすかったようだ。特に、「友だちから」の欄により、互いに認め合う姿を多く見ることができた。

④　授業の記録を振り返り、指導の改善を考えた。

・教師が児童の欠点を受け入れようとする姿を示すことで学級全体がその児童を受け入れ、互いに認め合うことができ一人ひとりのよさや気付きを共鳴させることができると考える。

・児童の発言や行動の背景を教師が深く理解し、それを適切に授業の中で生かし他の児童の学びにつなげていくことで、学級全体の気付きの質を高めていくことができると考える。

・個の学びを全体の学びへとつなげ、さらに個人へと返していけるような授業作りを行うために、どのような気付きを交流させたいのか、どの場面でどのように発問していくのかを明確にして授業に臨むことが大切であることを再認識した。

2　協議内容

（1）　学習指導要領の改訂に即した実践で、参考になった。特に、気付きの質を高める学習活動の充実のための７つの事項に留意している点がよい。

（2）　本単元は、内容（９）を主な指導内容としている。自分の成長への気付きを扱った本単元は、生活科の全単元と関わっているので、この提案のように２年間を見通した年間指導計画を立てたい。

（3）　内面的な成長への気付きを促す手だてとして、去年の担任に聞いたり、１年生の時に１年間の成長をまとめたものを見て振り返ったりした。

（4）　生活科では、授業以外の時間での子どもへの声かけも大切。子どもの何気ないつぶやきを生活科の気付きにつなげていけるとよい。

（5）　座席表指導案は、子どもたちの思いを授業の中でどう生かすかを構想でき、有効である。

（6）　授業記録から授業改善を考察することで、児童の気付きを意識して授業づくりを考えるようになったことが大きな成果だった。

3　まとめ

・現在の日本においては、自己肯定感の低さが課題であり、子どもの現状においても、自分に自信がもてない子・将来や人間関係に不安のある子が多い。そこで、生活科においては、自分自身についての理解を深めること、自分自身のよさや可能性を理解することが大切になってくる。その点、自分の成長への気付きを扱った本提案は、たいへん参考になるものである。

・気付きの質を高める手だてとして７つの事項全てに取り組んだことが意欲的であった。

・授業記録をもとにした授業改善においては、マイナス部分も肯定していくことの大切さがわかる。子どもに対する教師の一方的な願いを先行させるのでなく、ありのままを受け入れることで、自己受容でき、自己実現につながる。

・２年間を見通した年間計画を見直すことで、カリキュラムが整理され、効果的な指導が見えてくる。

4　協議の柱に即した協議（グループ協議）

（1）　新学習指導要領に沿った年間指導計画の作成について

・１・２年生の連携や内容（９）とのつながりを考慮し、２年間を見通した年間指導計画を作成したい。

（2）　言語活動の充実について

・身近な人々、社会及び自然とのかかわりや自分自身について考えたり、気付きの質を高めたりするため、活動や体験したことを振り返ったり、他者と交流したりするなどの学習活動を充実することが必要である。